

昨年九月の米証券大手リ  
ーマン・ブラザーズの破綻  
(はたん)から半年がたっ  
た。その間、世界経済はいっ  
そう悪化している。当初は、  
前例のないような劇的な金  
融危機に翻弄(ほんごう)さ  
れるという状況であった  
が、次第に実体経済の悪化  
が前面に出てきている。

しかも、日米欧のそれぞ  
れが異なった問題に直面し  
ている。そうした中で、二  
回目の二十カ国・地域(G  
20)の首脳会合(金融サミッ  
ト)だった。二十カ国・地域  
の首脳が集まる会合で、踏  
み込んだ議論をするのはな  
かなか難しい。各首脳が十  
分ずつ話すだけで、半日が  
つぎれてしまふ。

G20が会議として意味を  
持つのか、疑問を感じてい  
る専門家は少なくない。た

## 伊藤 元重 東大大学院経済学研究科長

だ、中国やインドなどの新  
興国が参加しないこれまで  
の主要八カ国(G8)のよう  
な枠組みでは、世界的な金  
融危機を論議する場として  
適当ではない。G20とい  
う形が適当かどうかは別とし  
て、巨大な新興国を巻き込  
んだ枠組みが必要であるこ  
とは間違いない。

東欧諸国をはじめとして  
多くの中小の途上国や新興  
国が厳しい金融危機に陥っ  
ている。IMFの機能強化  
と、主要国からの追加資金  
の提供が必要だ。G20が首  
脳レベルで一定の合意をし  
たのは意味がある。  
WTOの役割も再確認さ

要だ。  
一方、金融危機回避策や  
景気対策などについて、G  
20の場で何らかの具体的な  
合意を得ることは難しい。  
日米欧がそれぞれ異なった  
問題に直面している限り、  
それぞれの国が独自の危機  
対応をせざるをえないから

は、今後の金融制度のあり  
方についても議論された。  
金融制度の改革は当面の危  
機を乗り切った後の問題で  
はあるが、サミットの場合  
使って論議が進んだことは  
歓迎すべきた。より詳細な  
制度設計については、国際  
決済銀行(BIS)のよう  
な実務家レベルの会合の場  
で詰めていかなければいけ  
ないが、これまでの制度には  
どのような欠陥があったの  
かという点について、首脳  
の間で意見が交換された。  
一日程度のサミットで、  
世界的な経済危機の問題が  
一気に解決できることは誰も  
期待していない。ただ、年内  
に三回目の金融サミットを  
開くことも決まった。こう  
した場に各国首脳が参加す  
ることで、今後、各国でよ  
り大胆な危機対応策がとられ  
ることを期待したい。

# 国際機関の役割再確認

今回のロンドンでの会合  
には、いくつかの重要な役  
割があった。その一つは、国  
際通貨基金(IMF)や世界  
貿易機関(WTO)などの国

際機関が保護主義を  
抑え込むことで共通の認識  
を打ち出し続けることが重  
要だ。

れた。各国が経済危機に陥  
る中で、保護主義的な政策  
が増えることが懸念され  
てきた。WTOは保護主義を防  
ぐことがその主たる機能

だ。各国首脳が保護主義を  
抑え込むことで共通の認識  
を打ち出し続けることが重  
要だ。



いとうもとよし氏 51年静岡市  
生まれ。東大卒。東大経済学部長、総  
合研究開発機構(NIRA)理事長な  
どを兼務。本紙委員論説委員。

ただ、サミットの開催に  
合わせて各国が追加経済対  
策をまとめた意義は大き  
い。麻生太郎首相も会合の  
場で日本の追加経済対策の  
説明をしたようだ。首脳会  
合の場に出ることに、各国  
の対応を促進させる効果が  
あることは確かだ。

\*この記事・写真等は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。